

医療の道を目指す生徒に現役従事者からの講演会を行いました。

地域の医療 経験談に耳傾け

飛騨高山高 現役看護師ら講演



生徒に経験談を話す看護師＝高山市の飛騨高山高で

医療職を希望する生徒を対象にした、飛騨地域の現役医療従事者による講演会が、飛騨高山高校であった。看護師を目指す生徒の多い同校が、実際の医療職の仕事ぶりを知ってもらおうと初めて企画。飛騨市民病院（飛騨市神岡町）や久美愛厚生病院（高山市中切町）、高山赤十字病院（同市天満町）から、若手の看護師や作業療法士ら6人を講師として招いた。

この日は生徒35人が参加し、看護師らは就職のきっかけや仕事内容などを紹介。「退院する患者さんと握手をするときにやりがいを感じる」などと語る一方で、「担当する患者数が多く、意識して時間をつくらないと一人一人に寄り添えない」と仕事の難しさも打ち明けた。

3年の針田優羽さん（17）は「持ち歩いているものなど、思っていたことと違う点がいろいろあって面白かった。理学療法士になりたい気持ちが高まった」と話した。（北川鈴乃）